

隊 友

湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

「韓国新政権の行方と

我が国の安全保障」その2

湘南支部長 中尾 剛久

第2に北朝鮮は昨年6月、ロシアと「包括戦略パートナーシップ条約」を締結し、ウクライナと戦争中のロシア軍支援のため、弾薬等を含む装備品等の提供や自軍の部隊を派兵していると言われていました。これにより、ロシアとの結びつきが一層強固となり、高度な軍事技術の取得や、派兵による実戦経験の蓄積が北朝鮮軍の能力向上を加速させていると思われます。さらには先述の条約には有事相互支援が盛り込まれていることから、朝鮮戦争の休戦が破れた場合には、ロシアによる軍事的支援も期待できると考えている可能性もあります。

第3は、米政権の動向にあります。在韓米軍の縮小ないし撤退について検討しているとの報道がありました。これがトランプ政権得意のディールの材料として、あえて高めの球を投げているのであればよいのですが、トランプ大統領は第1次政権の時も同様の主張をし、周囲に説得されて思いとどまった経緯もあるため、あながちブラフではないのかもしれないと思えます。これは極めて危険ではないかと思えます。現在休戦中の朝鮮戦争は、その勃発の一因として当時の米國務長官のアチソン氏の発言が挙げられています。朝鮮半島を含まない対ソ防衛ラインが設定されていると認識した北朝鮮に南侵のインセンティブを与えた

というものです。もし実際に在韓米軍の縮小や撤退が行われるならば、新アチソンラインとも言うべき誤ったシグナルを北朝鮮に送ることになるのではないかと危惧しています。

要は北朝鮮の動きにも中国に対する以上の監視、注目が必要であるということだと思います。仮に休戦が破られた場合、我が国は在留邦人の安全確保と輸送のみ実施しておけばいいということはあり得ません。これまでの両国の複雑な関係から、我が国の国情からも自衛隊部隊の派兵は検討の俁外と思いますが、好むと好まざるとに拘わらず、日本は韓国に対する兵站基地として機能せざるを得ません。1950年代の朝鮮戦争の時と同様です。

この意味からも、日韓両国の防衛協力は早急に推進すべきと考えます。両国の政権の動向で面と向かっての協力が困難な時期があるとしても、徐々に、かつ確実に両国の関係を深化させる必要があります。表立っての協力推進が困難なら、まずは B to B での協業の推進は良い方法だと思います。先ほど述べたように政府同士がうまくコミュニケーションが取れなくても、民間同士の関係であれば推進できる可能性はあります。何よりロジスティクス面での強固な結びつきは、切っても切れない関係に繋がります。両国の防衛協力の基盤になると思います。李大統領の外交方針が就任演説のとおり継続されることを望みます。

すが、左派政権の誕生を待っていたかのように、徴用工を巡る裁判では三菱重工敗訴の判決が出されています。法曹の世界でさえそのような状況ですから、韓国の政策自体も世論の風向き次第で外交方針が一変する可能性はないとは言えませんが、その風向きを操るのが北朝鮮の策動の結果であつても然りです。ましてや李大統領が自分自身のポリシーや哲学を押し通すというより、世論に流されやすいポピュリスト政治家との評価もあるのでなおさらです。

日韓両国間には歴史認識問題などの重たくて、簡単に片付かない問題が山積していますが、最近では若い世代を中心に反日意識も若干薄れてきていると聞きます。先日、ある高名な国際政治学者の方から聞いた話では、「シンクタンク同士の話でも、以前と異なり歴史認識などの日本に批判的な議論は一切出なかった。中国に対する強硬発言ばかりだった。一人当たり GDP が日本を抜くなど、徐々に自国の国力に自信を付けてきているからではないか？」との話も伺いました。ただ、日韓が政治レベルでも国民の意識レベルでも同盟関係に近い状態に至るにはまだまだ時間がかかり、それを待っている余裕はないと思えます。先の在ソウル日本大使館の評価にもあったように、「防衛（安全保障）は別！」と言い切って相互協力態勢を速やかに構築すべきと考えます。

終わり

安全保障トークサロンのお知らせ

支部理事役 荻原 洋聡

11月8日（土）、第7回湘南支部、西湘支部共催安全保障トークサロンを開催します。本安全保障トークサロンでは、第28代 海上幕僚長の吉川榮治氏の講演予定です。

最近の我が国を巡る安全保障に関する話題に加えてご自身の体験に基づく講話が期待されます。

安全保障トークサロン開催の詳細については、次月号の湘南支部ニュースに掲載します。

ふるっての参加をお願いします。

「パプアニューギニアのこども

たち展」レポート その1

支部理事役 荻原 洋聡

1 お知らせ

岩手県久慈市・「芸術村 あーとびる麦生（むぎよう）」で、「パプアニューギニアのこどもたち展（絵画等展示）」を7月5～11月の5か月間（土日のみ）開催中です。そこで展示される絵画等は、私が一昨年（3回@ウエルク）と昨年（1回@ブーゲンビル島）のパプアニューギニア（以下PNG）での日本戦没者遺骨収集現地調査の過程で、こども君たちに届けたお絵描き道具で描いてくれたものです。その展示の様子は、地元紙「岩手日報」の取材を受け、7月17日紙上に掲載されました。今回は、その展示会に至った経緯、背景、今後の展望について述べたいと思います。

・展示にあたっての理念・願い・問いかけ・意義？

昨年の、隊友会湘南支部 安全保障トークサロンでも報告させていただきましたが、PNG現地調査の体験を通じて自問自答していることは、「僕たち、私たちは、何か大切なものを忘れていたのではありませんか？」ということです。

昭和100年にあたる本年は、戦争の昭和時代（20年間）＋戦後の昭和時代（80年間）の大きな節目となる年（結節点）でもあります。戦没者の遺書には、かけがえのない大切な家族（親兄弟、子どもたち等）への想いが痛いほどに綴られています。その想いがあつたからこそ、彼の地に派遣されても壮絶な戦いを戦い抜く根源となつたのではないのでしょうか？その挙句、その想い／願いが叶えられなかった無念を、このような形（PNGのこども君たちの絵画展）でも伝えることができたなら、幾ばくかの供養になるのではないだろうか？？と思つたことが今回の展示に繋がりました。

昭和100年【戦争の時代20年間】＋（恩恵の平和の時代80年間）で終わりではなく、これまでの【心身の姿勢・座標軸】を再検証・再考して、これから続く、次の100年間、すなわち、【昭和200年】に向けて、我々は、何を伝え、遺して繋いでいくのか？を考えるひとつの機会・場であつたらと願うところです。



「新しい暮らしの中で、パプアニューギニアの子どもたちとはどうして生活していた？」と話す萩原洋祐さん

岩手日報(7/17)に掲載された萩原理事役

【次号以下は左記の構成で予定しています。】
2 「パプアニューギニアの子どもたち展」開催への経緯・背景

3 展示内容の概要説明
（展示会場の構成に従って）

4 来訪者の反応（会場での説明に対する）今後の展望

食糧消費量を把握して減災

支部理事役 鼓 達也

防災対策としてローリングストックという方法がある。日常で自身がどれくらい食糧を消費しているのか把握して置くだろうか。1日に必要な水の量や災害トイレキット数なども数値化してアナウンスされている。しかし個性がありなるとなくの備蓄では心もとない。今回は主食でもあるお米について考えてみよう。

1カ月（30日・3食）茶碗1杯（概ね150g）。米1合を炊飯すると約330gになると考えてみると、1カ月で約6kgのお米を消費することになる。実際には毎食お米ではなく外食・麺類やパン食なども考えられるので、大人1人で毎月お米を6kgよりは少なめで5kgあれば十分ではないか。子ども茶碗は一般的に100gで炊飯前の量は約50gであり、子ども1人あたり1カ月約4kg（30日・3食）のお米が必要となる。これも麺類やパン食などにより量は変わる。また子どもと言つても年齢によって食べる量が異なるうえ大人でも食事は個々で異なる個性を考慮する必要がある。まとめると、1カ月に大人1人あたり5kg、子ども1人あたり4kgのお米が必要量の目安である。4大家族（大人2人子ども2人）であると1カ月に約18kgの

お米が必要となる。

このように、平時から自身や家族が何をどれくらい消費しているのかを把握してローリングストックしておくことでより現実的な減災行動へとつながる。私は玄米を購入しているが、白米に比べて長期保存が可能というメリットがある。また私はグラノーラも備蓄しておりこれは常温保存が可能かつ調理不要でそのまま食べることが可能で災害時にはメリットとなる（平時でも牛乳をかけて手早く食べられる）。備蓄する際に改めて自身や家族が何をどれくらい必要とするのか試算して備蓄することが必要である。

※お米1合は、体積で約180ml、重さでは約150gです。炊飯すると、約330g（お茶碗2杯分）のご飯になります。

鹿児島県大雨特別警報

支部理事役 深澤 文晴

気象庁が8月8日午前5時に鹿児島県霧島市に大雨特別警報を発表しました。その後の報道で複数の家屋の倒壊、土砂崩れ、浸水などの被害が明らかになりました。また、霧島市と始良市では広範囲で断水が発生し自衛隊が給水支援を実施しました。

※以降は、統合幕僚監部HPより引用

・8月9日(土)0700、鹿児島県知事から陸上自衛隊第12普通科連隊長に対し、霧島市及び始良市における給水支援に係る災害派遣要請があり同時刻受理
・同0800以降、霧島市及び始良市において、給水支援活動を開始

・霧島市（期間8月9日から11日）活動部隊…陸自第12普通科連隊

給水実績…約127t
支援実績…約5、200名を支援

・始良市（期間8月9日から13日）活動部隊…陸自第12普通科連隊
使用機材…水タンクトレーラー2両
給水実績…約43t
支援実績…約1、300名を支援

令和7年度年会費納入者（敬称略）

湘南支部長（八月八日現在）

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

特別会員

日下部 巨男、

支部会員の訃報

謹んでご冥福をお祈り致します

正会員 故 池田 晃 氏
令和6年5月 ご逝去

「支部の予定」

- ・09/13（土）第6回支部理事役会
- ・09/22（月）9月号隊友紙発送
- ・10/11（土）第7回支部理事役会
- ・10/中旬 名所旧跡探勝
- ・10/22（水）10月号隊友紙発送
- ・11/01（土）第8回支部理事役会
- ・11/08（土）安全保障トークサロン

編集後記

7月30日午前8時25分ころ、カミチャッカ半島付近を震源とするマグニチュード8.8の地震で日本の広範囲に津波警報が発表されました。今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。